

氏名	馬場 雄己
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6225 号
学位授与の日付	2020 年 6 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Clinical Characteristics and Risk Factors for Rebleeding in Patients with Obscure Gastrointestinal Bleeding (原因不明消化管出血症例の臨床的特徴と再出血リスク)
論文審査委員	教授 藤原俊義      教授 八木孝仁      准教授 白川靖博

#### 学位論文内容の要旨

背景：小腸内視鏡検査の発展により、原因不明消化管出血（Obscure gastrointestinal bleeding ; OGIB）の診療は進歩を遂げているが、再出血を認める場合があり、その際の診断、治療は困難である。このため、再出血のリスクを評価することは OGIB の診療において重要である。本研究の目的は OGIB 症例の臨床的特徴と再出血リスクを検討することである。

方法：2009 年 1 月から 2016 年 7 月までに OGIB に対し当院でカプセル内視鏡、またはダブルバルーン内視鏡を行った 168 名について後方視的に検討した。

結果：168 名中、再出血を 29 名（17.3%）に認め、慢性腎障害、血管性病変、Overt previous bleeding 症例（下血や血便などの可視的出血を過去に認めた症例）が有意な再出血リスク因子であった。

結論：OGIB 症例のうち、慢性腎障害を有する症例、血管性病変症例、Overt previous bleeding 症例は再出血リスクが高かった。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、原因不明消化管出血（Obscure gastrointestinal bleeding: OGIB）の小腸内視鏡による診断あるいは治療後の再出血を予測するために有用なリスク因子を解析した後方視的な臨床研究である。

岡山大学病院で OGIB としてカプセル内視鏡あるいはダブルバルーン内視鏡を実施した 168 名について、臨床的特徴と再出血の経緯を検討し、再出血リスク因子を探索した。その結果、168 名中 29 名、17.3%に再出血を認め、単変量および多変量解析にて慢性腎障害、血管性病変、Overt previous bleeding 症例が有意な再出血リスク因子として抽出された。しかし、抗凝固薬剤の使用は有意とはならなかった。

委員からは、再出血の部位や治療介入などについて質問があり、適切な回答が得られたが、抗凝固薬剤の使用が有意とならなかった理由の検討や実臨床へのフィードバックについては、さらなる検討が望まれた。

本研究は、OGIB の再出血のリスク因子を同定した点で、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。